

地球で働くという選択肢。

海外ボランティア募集説明会開始

JICA九州ネット

jqrn

第6号

ファヴェーラの丘
映画上映会&ワークショップ

今、アフリカが熱い！

好き、好き、好きで

新任JICAデスク鹿児島 力竹貴子

ナガサキ・ヒロシマを伝えた青年海外協力隊員たち

今、アフリカが熱い

■ 2月7・8日の土日にアフリカデーとして「唄おう・踊ろう・楽しもうアフリカ音楽」「聴こう語ろう今後のアフリカを」という2つのイベントを開催しました。なぜ今アフリカなのか！？

イベント運営にたずさわった国際理解を深める会代表 橋本建矢さんにお話をうかがいました。

■ 初日は、西アフリカ民族音楽ジャンベの演奏会。地元ジャンベグループの方々が出演。小学校1・2年生のちびっこ軍団から大学生、大人まで20人以上のプレイヤーとダンサーが演奏、踊りを披露しました。フィナーレには100名を超える観客と出演者が一緒になって踊りまくり、最高の盛り上がりとなりました。参加者は「いやー凄かった！」「その迫力に本当にびっくりした！」「最高に面白かった！」などの言葉をいただきました。

“知っているようでよく知らない”

日本から遠く離れているアフリカ諸国についてわれわれ日本人は“知っているとしても短絡的なイメージでしかないのでは？”という思いからイベントを企画しました。



■2日目のパネルディスカッションでは熊本在住のアフリカの東西南北地域のウガンダ、カメルーン、南アフリカ、エジプト出身の方計4名、コーディネーターとして東アフリカを専門とされている熊本大学文学人類学の慶田教授をお迎えして『多様なアフリカ諸国の今』をメインテーマにパネルディスカッションを行いました。色々活発な意見が出て考えさせられることが多かったのですが、彼らから私たち日本人に対しては「あまりにもアフリカを画一的・単一的にとらえすぎでは?」「すぐに貧困・エイズ・紛争・伝染病の蔓延・野生の王国などのイメージで括ってしまっている。」「アフリカには53の国がありそれぞれの国で異なる。その国・その国をよく勉強して正確に知ってもらいたい!」という意見がでました。また、熊本の印象を聞いたところ“緑が多く街がきれい”“安全で静かな街”“水が本当においしい”など少々気恥しくなるほど称賛していました。反面“街全体に英語の表示が少ない”“これだけの先進国なのに英語が通じない”など少々耳が痛くなるような意見もありました。

■この2日間は予想を上回る参加者がありました!これらのイベントを通じて参加した地域住民の方々が従来持っていたアフリカ諸国へのイメージを変え、少しでも正確な情報を得るための手助けができたとすれば所期の目的は果たせたのではないかと考えています。これまでフリートーク、講演会、パネルディスカッション、料理教室、音楽会、研修旅行など14回のイベントを開催し、22ヶ国約50名、日本人600名を超える方々に参加していただいています。これからも、せっかく熊本にも50数ヶ国、1万人以上の外国人が生活しているのだから様々な情報を対話を通じて地域住民の方々に届け、お互いに交流を深めたいと考えています。

国際理解教育、イベント、海外ボランティアのことなどお気軽にご相談ください。JICA デスク熊本 吉田智和 jicadpd-desk-kumamotoshi@jica.go.jp





ファヴェーラの丘

映画上映会&ワークショップ

ブラジル、リオデジャネイロのスラム街、ファヴェーラ

ピースボートのファヴェーラツアーに参加し、ブラジルのスラム街を訪れた大学生は、あまりに常識が異なる世界に衝撃を受けました。平和で豊かな国で暮らす私達とは遠くかけ離れている世界での出来事。何も知らずに過ごしている人達に少しでも知ってもらいたい、身近に感じてってもらいたいという思いから、大学生達は映画「ファヴェーラの丘」の上映会とワークショップを開催しました。上映会に来てくれた方々のほとんどがワークショップにも参加してくれました。そして映画の余韻の残る中、そのワークショップは始まりました。

アイスブレイク、氷を壊す、知らない人との間にある壁を壊す

新しい発見を沢山してもらうために、できるだけ知らない人同士でワークをしてもらいたかったので、くじ引きでグループわけをしました。もちろん、始めはぎこちない雰囲気なので、「共通点探し」のアイスブレイク(場を暖めるアクティビティー)をして、年齢、国籍、性別関係なく共通点があり、それは遠いブラジルのファヴェーラの人とでも同じということを確認していきました。

誰のために？

「もし明日からファヴェーラで暮らすなら何を持っていく？」というテーマのもと次のアクティビティーが始まりました。19個の品目の中から最大3つグループで選んでもらうというものです。100万ドル、拳銃、学校、ゲーム、食料と様々な種類の品目から、実際に自分がスラム街で過ごすことを想像しながら話し合うことで現実的にファヴェーラを考えてもらうことを目的としたものでした。アイスブレイクもワークも予想以上に盛り上がり、参加者の年代層も広がったために多様な意見が出ていました。すぐに結論がでるところもあれば、時間が過ぎても話がまとまらないところもあり、グループごとにも色があって面白かったです。どのグループも一番の話し合いの争点になっていたところは「誰のために持っていくのか？」というところで、自分のためなのか、現地の人のためなのか、そして、自分には何が必要で、ファヴェーラの人には何が必要かということ、思い思い議論していました。

日本的な目線？

日本人は日本人の常識の中でしか考えられていない。結果的には一番多かった答えは学校を持って行って教育をさせるといった考え方がほとんどでした。やはり、それはスラム街に支援して豊かで幸せに暮らすには学校教育と秩序が必要だという、上から目線の日本的な考え方からだったのではないのでしょうか。一グループだけは、「何も持っていかない」という選択肢を取りました。その土地その土地で同じ分だけ歴史を歩んできた結果、今の形になっています。そこに絶対的な優劣はありません。先進国が他国の見本ではありません。それぞれの国がその国なりに発展してきた結果が今の国となっています。国ごとに常識が違い、考え方も違う。奇しくも、アイスブレイクで共通点を、ワークでは相違点について考えさせられ、知ることができたのではないかと思います。

もし明日からファヴェーラで暮らすなら何を持っていく？

ポルトガル語テキスト
100万ドル

麻薬(コカイン10キロ)
聖書
梅干し
オーケストラセット
愛人
食料1年分
芋の苗
パソコン(無線LAN付き)
白旗
防弾チョッキ
ボディガード(K-1選手)
医大生
防犯ベル
原子爆弾
任天堂Wii
学校
拳銃(ワルサー)

映画「ファヴェーラの丘」

麻薬ギャング、腐敗した警察に支配されたブラジル、リオデジャネイロのスラム街は“ファヴェーラ”と呼ばれる。この映画は、数あるファヴェーラの中でも最も危険と言われるヴィガリオ・ジェラウを舞台に、絶望的で息詰まる日常から、希望ある未来を子供達に示そうと立ち上がった男を追ったドキュメンタリーである。家族や友人をギャングや警察に殺されたアンデルソンは、悲しみとともに「なぜ憎しみ、殺し合うのか？どうすれば暴力を止められるか」を考え始めた。そして「音楽は誰の胸にも響く！」一筋の光を見いだした元麻薬売人の彼は、仲間とともに『アフロレゲエ』というグループを結成。自らの悲劇を繰り返さないため、ギャングを夢見る子供達を救うため、銃や暴力ではなく音楽やダンスを武器に、ファヴェーラの丘に希望のリズムを響かせていく。『シティ・オブ・ゴッド』でも描かれた、信じられないほど暴力的なりオのスラム街“ファヴェーラ”。音楽によって変革をもたらす男を鮮烈に描いたこの作品は、トライベッカ映画祭を始め世界中の映画祭で20を超える賞を受賞する。



焼けた土地はどうなったの？

★ 建物は建っているの？ ★

★ 家族はみんな元気なの？ ★

長崎・広島出身の青年海外協力隊員は、任地で自分の出身地を言うと、こんなことを聞かれます。協力隊員が出会う人々には「原爆」という言葉、「原爆が投下された」という事実は知っていても、当時の状況やその後の復興についてはあまり知らず、未だに焼け野原だと思っている人がたくさんいます。隊員達は、原爆の事実を知ってもらい、平和がどんなに大切なものか、改めて考える機会を作りたいと、派遣国40ヶ所以上で、原爆写真展を開催しました。



■ 隊員たちが任地で開催した原爆展は、たくさんの人々の心を動かしました。

その感想をいくつかご紹介します。

■ 争いはとても愚かなことだと感じました。被爆した人々や被害の様子の写真を見た時はとても辛く、可哀そうでした。

— ウガンダ カユンガ県カンジュチセカンダリスクール

■ ありがとう。君たちがここで原爆展を開いてくれて、子供たちも見ることができた。多くの人が見ることができた。田舎に住む私たち、とくに子供たちは君たちが来なかったら、ヒロシマ・ナガサキについて、ほとんど知ることができなかった。だから、ありがとう。

— バングラデシュ Khulna

■ 私は原爆の被害について、将来の世代に必ず伝えます。私に聞いて今7歳の甥もこの事件について知っています。崩壊した街と復興した街の写真を見ました。それは空想的なことのように思えます。どうやってこんな短い時間に破壊された街をことごとく復興

させたのですか！素晴らしい。私は平和を求めます。みなさんに平和を祈ります！

— ウズベキスタン タシケント・ブハラ・ウルゲンチ・ヒヴァ・サマルカンド・ジザクを巡回

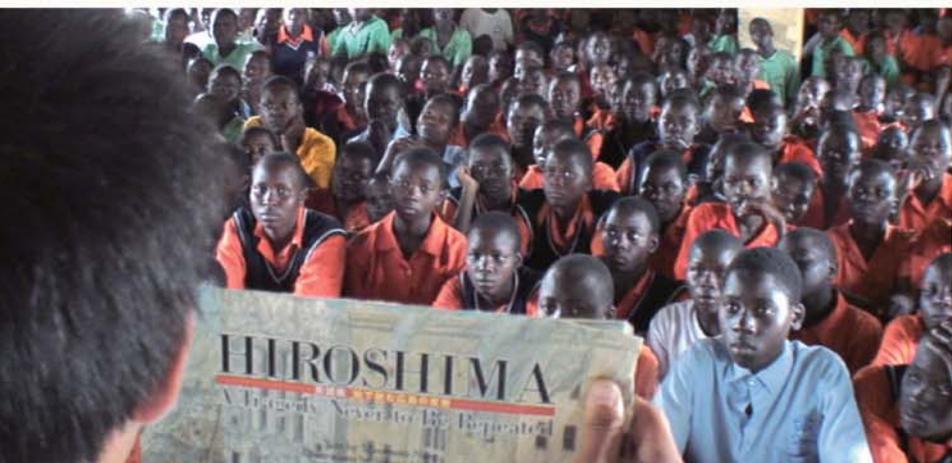
■ 言葉に出来ないほどの悲しみを感じた。すごく悲しい思いをしたけれど、日本に起こったこの悲しい出来事を私たちは知っておく必要がある。

— コロンビア カルダス県マニサレス市 カルダス大学構内

■ 中には、任地の人々が心をこめて折ってくれた千羽鶴を持ち帰り、広島や長崎の平和祈念館に奉納してくれる隊員もいて、とてもとても小さいけれど、平和の輪が繋がっていくのを感じることができます。長崎・広島の子員は、それが大切な役割の一つであるように、これからも任地で平和活動が続いていくのだと思います。自分自身も、その記憶を忘れてしまわないために。

海外ボランティアや国際理解教育などご相談ください。

JICAデスク長崎 林田美穂 jicadpd-desk-nagasaki@jica.go.jp



■鹿児島県のJICA窓口を努める国際協力推進員：JICAデスク鹿児島として新しく赴任した力竹貴子さんを紹介します。2000年から青年海外協力隊に参加、小学校教諭として2年間、ニジェールで活動しました。そんな彼女の意気込み?を聞きました。

学校が好きです。子どもが好きです。アフリカが好きです。
たったそれだけの思いで、青年海外協力隊に参加しました。

「国際協力」とか「ボランティア」とか、難しく、真剣に考えたこと、正直なかつたです。

任国でも日々の生活でイッパイいっぱい。たまに「私のやってることって、本当に意味があるのかな。」と思っても、答えが出ることは一度もなく、人並みに悩み、人並みに楽しんで任期の2年を終えました。でも、それでは困ることがあったんです。職種柄、学校などで話をする機会を沢山いただいたのですが、体験談や国の様子を話すことはできても、「国際協力」について語るができない!私が行った授業の感想は

「ニジェールの様子がよくわかった」

「いい体験をされたんですね」

というのがほとんどで、

「国際協力について考える機会になった」

という言葉に発展することはほとんど無し。

いつもそのことを気かけながら、でもやっぱり難しく考えられなくて、何となく蓋をしたまま6年が過ぎてしまいました。

そんな私が国際協力推進員。なってからでは遅いんですが、ここは気合いを入れて勉強しなくては。

協力隊風に言うと、任地鹿児島は、JICA九州からバスで約5時間。

一人任地で寂しいですが、幸い海外ボランティア経験者が沢山いるので何とかやっていけそうです。ちなみに私の出身は、かの有名な知覧町。特攻平和会館は小さい頃の遊び場でした。よくあの零戦にのって遊んでました(乗ってはだめですよ)。そういえば、戦争や平和についても、あまりにも身近すぎて深く考えたことなかったな・・・

いつも難しく考えることを避けてきた私。

せっかくのチャンスをいかせるように。自分らしく、笑顔を忘れず、がんばります!

海外ボランティア、国際理解教育などご相談ください。

JICAデスク鹿児島：力竹貴子 jicadpd-desk-kagoshimaken@jica.go.jp



好き、好き、好きで

地球で働くという選択肢。

青年海外協力隊

自分のチカラを待っている人が、もしかしたら海の向こうにいるかも・・・
と思うと、興味ありませんか？

でも具体的にどんな仕事があるのか、何年行くのか、
行っている間の生活や、帰って来てからどうなるのか、よく分からない！
ということで、青年海外協力隊の参加者の方をスタジオにお迎えして、
根掘り葉掘り聴いてみることにしました。

地球で、働こう！ **cross fm** がお贈りする **morning gate** 朝7時から。

fukuoka 78.7MHz

kitakyushu 77.0MHz

kurume 86.5MHz

omuta 87.8MHz

青年海外協力隊

4月05日(日) 14:00	鹿児島	かごしま県民交流センター3階
4月05日(日) 14:00	宮崎	宮崎市民プラザ4階大会議室
4月06日(月) 18:30	北九州	アジア太平洋インポートマート
4月07日(火) 18:30	佐賀	アバンセ4階第1研修室A
4月08日(水) 18:30	福岡	アクロス福岡7階大会議室
4月10日(金) 18:30	熊本	熊本市国際交流会館4階第3会議室
4月11日(土) 14:00	佐世保	アルカスSASEB03階中会議室
4月11日(土) 14:00	鹿屋	リナシティかのや2階情報研修室A
4月11日(土) 16:30	下関	海峡メッセ下関

シニア海外ボランティア

4月06日(月) 18:30	北九州	アジア太平洋インポートマート
4月07日(火) 18:30	佐賀	アバンセ4階第2研修室A
4月08日(水) 18:30	福岡	アクロス福岡1階円形ホール
4月10日(金) 18:30	熊本	熊本市国際交流会館5階大広間
4月11日(土) 13:30	下関	海峡メッセ下関

募集説明会は4/28鹿児島会場まで各地で開催されます。
詳しくはJICA九州イベント情報をご覧ください。



モロッコの研修員にいただいた
お土産品です。皮のお財布です。
太陽と星が砂漠の空を連想させる
一品です。

モロッコからの研修員も参加した
JICA九州が実施する
AIDSの予防及び対策研修が
熊本で開催されました。

モロッコその他、
ブラジル、中国、エルサルバドル、
ホンジュラス、ジャマイカ、
モルドバ、モロッコ、ミャンマー、
ネパールからも参加がありました。
緊急の課題に取り組む
研修員たちを暖かく迎え、
和服の着付けを体験する会を
開いてくださる方々がありました。
ありがとうございます。

JICA九州では、様々な
民芸品や衣装などの貸出を行って
います。イベントや授業などに
ご利用ください。詳しくは

jicakic-lib@jica.go.jpまで。